

## 2022年度（令和4年度）事業報告書

2023年6月

公益社団法人こども環境学会

2022年度（令和4年4月1日より令和5年3月31日まで）に次のような活動を実施しました。

### 記

#### ①（公1）教育・啓発事業

##### A 大会の開催

東京都(会場：日本女子大) 2022年6月30日(木)～7月3日(日)の3日間(6月30日はプレイベント)。プレイベントは日本ユニセフ協会と共催で新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン方式により開催。テーマ：コロナ禍長期化において子どもの健全な育成環境と子どもにやさしいまちづくり。

基調講演「新型コロナウイルス感染症流行下における子どもの健康」五十嵐 隆(こども環境学会会長/国立成育医療研究センター 理事長)、「変化する社会において子どもの権利をどう守るのか」甲斐田 万智子(認定NPO法人国際子ども権利センター代表理事/文京学院大学教授)をテーマにて開催した。

パネルディスカッション「コロナ禍長期化における子どもにやさしいまちづくり」(五十嵐 隆、甲斐田 万智子、片山 健也 氏(ニセコ町長)、若生 裕俊 氏(富谷市長)、仲川 げん 氏(奈良市長)、木下勇(大妻女子大学教授)をテーマに開催した。

本大会は新型コロナウイルス感染症の影響によりハイブリッド方式(リアル及びオンラインの併用)により開催。

テーマ『クライシスとこどもの環境』

- ・エクスカージョン Aコース:日本女子大学附属豊明幼稚園・豊明小学校見学、  
Bコース:豊島区内を巡るIKEBUS(イケバス)で豊島区役所 豊島の森、南池袋公園などの見学、  
Cコース:日本女子大・目白の森キャンパス内の図書館、教室・研究棟等を見学、の3コースで開催。
- ・シンポジウム  
「KINDINMI プロジェクト移民家族への社会的誘導や統合の為の機関としての就学前施設の役割」  
ベロニク シモン(スウェーデン王国ウプサラ大学准教授)、「日本における外国にルーツのある子育て家庭の状況」  
和田上 貴昭(日本女子大学准教授)、「多文化共生社会への共創をめざして―「変容をうながす学び・教育」の再構築―」  
小澤紀美子(東京学芸大学名誉教授)を行った。
- ・基調講演「中庭というヴォイドが繋ぐ多様な風景―日本女子大学のキャンパス再整備を通して―」  
篠原聡子(日本女子大学 学長)をテーマに開催した。
- ・分科会：①『こどもたちが活用できる森とは？―日本女子大学西生田キャンパスを例として―』、②『こどものクライシスから地域の持続可能性を考える』、③『こどもの健康と環境』、④『こどもの精神的ストレスと支援』の各テーマにて開催した。
- ・若者トークセッション テーマ「ワカモン\*(若い”問い” )を交わしワクワク協創しよう：こども環境の[DX]を世代縦横断で探る：体験、身体性、コミュニケーション、多様性～」  
若手を中心に、あらゆる世代の実践者・研究者が集い、知見・意見を交わし「こども環境」の未来づくりに何が重要な目標か、何を行っていくかを話し合った。
- ・ポスターセッション、ワークショップ(親子で参加)を開催した。

※大会参加は 実際の参加 191名、オンライン 240名

##### B セミナー、シンポジウムの開催

- ・合同セミナー 2022年4月30日(土)に岐阜県関ヶ原町で開催した。  
テーマ「ミライへこどもを育む環境―いまこそ、カラダで遊べ―」  
「外で遊ぼう！ぴょん・ぐるん・ぱ」西川とし子(協育NPO 母りん子)を行った。  
0歳～6歳の子を中心に親子が参加し晴天の下、芝生の上で伸び伸びと活動が行われた。参加66名。  
基調講演「あそびと学びの環境」仙田満(仙田 満)、シンポジウム「ミライへこどもを育む環境―いまこそ、カラダで遊べ―」河原 啓二、(前福島県南保健所長、小児科医)、青木 哲(岐阜工業高等専門学校)、西川とし子(協育NPO 母りん子) 藤井健太郎(関ヶ原町立関ヶ原中学校)を実施した。参加46名。
- ・こども環境学会 2023年沖縄大会プレ・セミナー  
テーマ 「地域に生きるこども」  
2022年11月26日(土)に浦添市で開催した。  
講演 基調講演 「こども達の居場所環境の環境デザイン」仙田満(東京工業大学名誉教授)

パネルディスカッション「地域に生きるこども」コメンテーター、コーディネーター、話題提供者とともに実施した。参加 101名 (実際の参加 15名、オンライン 86名)

### C 広報活動

- ・本会の活動に関する学会誌3回を発行した。発行部数1固につき約1,200部。
- ・ウェブ・サイトの管理、サイトの全面リニューアルを行った。メールマガジン(サイト上にウェブマガジン)の発行を行った。こどもたちを対象に表紙コンペを開催し、最優秀賞の作品を学会誌の表紙として採用した。

### D 災害等復興支援活動

#### 福島県からの受託事業

令和4年度の「福島県保育所等環境改善巡回指導業務」を受託し、提案、指導を県内各地の保育園、こども園に対して行った。

### E パンフレット、書籍出版活動

- ・発行物の刊行に関して研究等の成果のとりまとめ、編集を行った。
- サイト上にウェブマガジンの掲載を行った。(上記Cの通り)子ども向けのイラスト入りパンフレットの発行、サイト上での無償公開を行った。

## ② (公2) 研究・評価事業

- ・こども環境に関する研究活動、評価を行った。設置されている研究会：  
災害復興支援・学術連携研究会、立体的居住・高層居住におけるこどもの成育研究会、ウィズコロナ、情育環境研究会、こども環境研究会北海道、北陸こども環境研究会、東海こども環境研究会、こども環境研究会関西、こども環境研究会関東、発達障害と生活環境を考える会、困難をかかえる子どもへの支援研究会、あそびをせんとや生まれけむ研究会、上記の研究会にて研究、調査等を行った。

- ・研究・評価事業に関連し、学会誌、合同セミナー、プレ大会等で発表した。
- ・東日本大震災の災害被災地、新型コロナ流行下における、こどもの環境等について研究、評価活動を行った。
- ・こども環境研究センターにて、研究活動・・・新型コロナの影響のため実施ができなかった。
- ・査読部会にて、論文の査読を行った。人数 51名、査読された論文本数 23本。

## ③ (公3) 資格認定、顕彰事業

### A こども環境アドバイザー資格の認定

(こども環境の知識、経験、ノウハウ等を持つ者に対して本会独自の資格を設け、認定する。)

#### 第15回こども環境アドバイザー資格講習会

2023年3月11日(土)と12日(日)の2日間で開催した。

資格認定参加者は全員で 10名 (新規受講 8名、再受講 2名)、2022年度中の新規認定者は 0名。

### B こども環境学会賞の公募

(こども環境の発展に寄与する、優れた論文・著作、デザイン、活動、自治体施策に対し、専門家による選考委員会の審査を経て顕彰する。)

今年度は、応募締切の2022年10月末までに論文・著作賞 11件、デザイン賞 7件、活動賞 6件、自治体活動施策 2件、合計 26件の応募があった。

選考委員による厳正な審査の結果、論文・著作賞 2件、論文・著作奨励賞 0件、デザイン賞 1件、デザイン奨励賞 1件、活動賞 1件、活動奨励賞 2件、自治体施策賞 1件、自治体施策奨励賞 1件、以上合計 9件が選定されました。

表彰式は、2023年7月の沖縄大会(会場:浦添市内)にて行う。

(氏名は敬称略) 以上